

みたか環境ひろば 第41号

平成 24 年 10 月 1 日号



野川の自然環境

野川は、国分寺崖線から湧き出る湧水を集めて流れ、我々に潤いを与えてくれている。今年はなぜか、例年より流量が多い。そのせいか、野川の清水橋付近でアユの姿をみたという。多摩川には沢山のアユが遡上しているが、支流である野川では、これまで姿を見かけなかった。アユの姿がみられたことは大変うれしいことである。

野川では、カワセミの姿も毎日見ることができる。獲物の小魚が多いためである。初夏には野川の水辺の草地でカルガモが雛を育てる。水辺には、ミクリ、フトイ、ヒメガマ、アシなどの群落もある。ミクリは、7月ごろに花をつける。雌花は、特に美しい。8月にはハグロトンボが沢山水辺を飛ぶ。

夏休みや休日には、手網をもった沢山の子供たちが野川に入る。多くは、アメリカザリガニ、モツゴ、ミナミヌマエビなどを捕まえている。

野川には約300種の植物が生育している。そのうち約40%は外来植物である。外来生物法で特定外来生物に指定されている好ましくない植物12種の内、4種を野川でも見かける。アレチウリ、オオフサモ、オオカワヂシャ、オオキンケイギクである。要注意外来生物に指定されている植物にオオバクサがあり、野川全流域で、このオオバクサと特定外来生物のアレチウリが繁茂している。

河川管理者である東京都の年3回の草刈りとみたか野川の会の5年間の駆除活動で、オオバクサとアレチウリの姿が少なくなった三鷹地区の野川は、美しくなったと実感できる。とてもうれしいことである。この自然豊かな野川を大切に守っていききたいものである。(安達 栄一)



ミクリの花

旬産旬消



「旬産旬消」という言葉をご存知ですか？この言葉は、地域で生産された旬の食材を旬の時期に消費するという意味で、地産地消から派生・発展した概念です。今はハウス栽培などで1年中豊富な野菜が手に入ります。しかし一番味がよく、栄養価も高い上に、流通量が多いのは、旬の野菜です。また「旬産旬消」は、環境負荷の高い食材の輸入や、工場での生産を減らすこと、いわゆる「エコ」にもつながります。では、今が旬の野菜を知るにはどうすれば良いでしょうか？その方法の一つが「近所の畑に注目する」ことです。少し乱暴な言い方かもしれませんが、露地(屋根などの覆いのない地面のこと)で作る野菜はその季節にあったものしか収穫できません。ですから、今収穫できるものが、その野菜の旬なのです。三鷹市には、露地栽培の畑が至る所にあります。是非近所の畑を気にしながら歩いてみてください。これからは、キャベツやブロッコリー、カリフラワーを見かける機会もあるはずですよ。

それでは、その三鷹産の採れたてで新鮮な旬の野菜は、どこで手に入れられるでしょうか？三鷹市やJAに直販マップというものがあります。そこには、各農家の庭先販売所やJAの三鷹緑化センターが紹介されています。必ず皆様の近所にも旬の野菜に出会える場所があると思います。是非、直販マップを手に市内

を散策し、旬産旬消にチャレンジしてみてください。(川口)

江戸のリサイクル

明暦3年(1657)の大火で焼け出された神田連尺町の人々が移り住んだところが連雀新田(今の下連雀)。その江戸はリサイクルが盛んだった事をご存知ですか？連尺とは荷を背負う背負子(シヨイコ)の



灰買い(守貞漫稿より)

事(後には天秤棒が主流)。尺の字を雀に改めた連雀町は行商人の町で、江戸は何でも売りに来てくれる便利な町でした。又、物売りばかりではなく古紙や古傘買い・瀬戸物の修理屋・下駄の歯入れ屋、果ては灰買い業もありました。竈(ヘツツイ)の灰は純粋な木灰として取引され、カリ肥料や製紙、洗濯に必要なアルカリ物質として莫大な需要がありました。今でもコンニャクを作る際にエグミを除いて固める灰汁(あく)を使います。成分に含まれるシュウ酸等を中和し除く役目を果たします。江戸時代は物を大切に、ゴミが大変少なかったのです。江東区の深川江戸資料館には江戸時代の長屋が再現されていますので塵箱を覗いてみてください。リサイクルは江戸に学ぶ事が多く有ります。(今井)



古傘買い(守貞漫稿より)

一石二鳥のエコシステム

環境にエコな事、車の排ガスやお風呂や給湯器からの排気にもエコが注目されてきています。そこで、LPガス、都市ガス、灯油などから水素を抽出し、空気中の酸素と化学反応させ、電気をつくりさらに、発電の際に発生する熱を利用してお湯をつくり給湯に利用する一石二鳥のエコシステム「エネファーム」があります。1つのエネルギーから電気とお湯の2つを作りだす無駄の無いシステムです。『エネファーム』とは、「エネルギー」と「ファーム=農場」の造語です。水素と酸素から電気と熱をつくる事と、水と大地で農作物をつくる事はとても似ています。自分のエネルギーを自分でつくる。CO2を排出しない太陽光発電と合わせれば環境に優しいこれからのシステムとして活躍を期待したいですね。(西山)

■エネファームのしくみ(イメージ)



私の玉川上水緑道

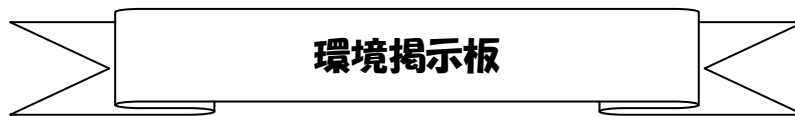
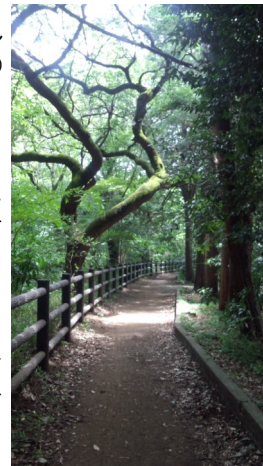
史跡として都水道局により整備保全が進められている玉川上水の沿道は、玉川上水緑道と命名されています。井の頭公園を貫く万助橋から幸橋迄700m程の上水沿いの小道が私のお気に入り、「〇〇の小道」と勝手に命名して足繁く通っています。

風の散歩道から万助橋交差点の喧噪により見落としてしまいそうな小道に分け入ると、そこはもう別世界、公園の古木と上水沿いの灌木に覆われた緑のトンネルの中を小道が続きます。特に小道の中央に位置する幸橋までの道筋は、落ち葉が積もり踏み込んだ足がクッションの上を歩くように柔らかく受け止められる感覚があって、ウォーカーや年配者に好評であったと思います。ひょっとして江戸時代以前の街道や生活道はこのように道行く人の足取りを優しく受け止め、草鞋履きの長旅をも癒やしてくれたのでしょうか？

ところが昨年度末に実施された上水柵の取替工事の際に、小道表面の土が掘り起こされローラーで踏み固めたり、砂利をまいて路面を固める部分があたりして、以前のクッションの様な感覚が失せてしまったのは残念です。更に固められた路面の水捌けが悪くなったからなのか雨後にぬかるむ部分も増えました。このぬかるみに砂利などをまく処置が執られており、自然の感覚が益々失われてしまうのではないかと心配しています。

上水の反対側には松本訓導殉難の碑が建っています。大正11年、遠足で訪れていた永田町小学校の生徒が急流に飲み込まれ、救おうと飛び込んだ松本教諭が殉職した事件は年配の方ならご存じの方もいらっしゃると思います。私は大正生まれで田舎育ちの父から聞かされました。今ではわずかな流れを保つ水路が、入水した太宰の他多くの人命を奪い、当時「人食い川」と呼ばれた面影は今やこの碑に残るのみとなりました。

幸橋から更に進むと右手に野鳥の観察所が現れます。ここを一角としてこの小道を辺とする三角型の茂みは小鳥の森と呼ばれ、ツミ、ツグミ、シロハラ、ルリビタキなども生息しています。小道を挟んだ反対側上水の柵内には、枯れた古木がキツキの為に残されています。この辺りまだまだ多くの自然が残され、以前には「蛇に注意」の看板も見られました。小鳥の森が立ち入り制限されているように、環境は意識しないと守ることが出来ません。後世に多くの自然を残したいものです。(横山)



<p>環境学習事業 「エコ・クッキング教室」</p> <p>主催：三鷹市 日時：12月9日(日) 午前10時半～午後1時半 場所：社会教育会館実習室 対象：市内在住の小学生とその保護者 2名1組 定員：18組36名(応募者多数の場合は抽選) 料金：無料 申込先：はがき又はメールで環境政策課まで (詳細は市報11月4日号またはHP参照) 問合せ：環境政策課(内線2524)</p>	<p>市民大学総合コース 共通自主学習日公開講座 「持続可能なエネルギー社会への 転換に向けて」</p> <p>主催：社会教育会館 日時：10月19日(金) 午前10時～正午 場所：社会教育会館本館 対象：市内在住・在勤・在学の16歳以上の市民 定員：先着50人 申込先：当日、直接会場へ 問合せ：社会教育会館</p>	<p>大沢の里水車経営農家 特別公開</p> <p>主催：三鷹市教育委員会 日時：10月26日(金)～28日(日) 午前10時～午後4時 場所：大沢の里水車経営農家 対象：当日参加可能だが、事前申込者優先 定員：各日100人(申込優先) 料金：100円(中学生以下無料) 申込先：生涯学習課 問合せ：生涯学習課(内線3316)</p>
<p>全国都市緑化フェアTOKYO</p> <p>主催：東京都、(財)都市緑化機構 日時：9月29日(土)～10月28日(日) 場所：井の頭恩賜公園ほか 対象：当日参加可能 定員：なし 料金：無料 申込先：期間中、直接会場へ 問合せ：第29回全国都市緑化フェア TOKYO実行委員会事務局 03-5320-5339</p>	<p>「変身たまご」作り</p> <p>主催：三鷹市 日時：10月18日(木) 午後1時～3時半 場所：三鷹市リサイクル市民工房 対象：特になし 定員：8人 申し込み多数の場合は抽選 料金：無料 申込先：往復はがきで10月9日必着で 申し込む 問合せ：ごみ対策課(内線2534)</p>	<p>「紙バンドのフチかご」作り</p> <p>主催：三鷹市 日時：10月24日(水) 午後1時～3時半 場所：三鷹市リサイクル市民工房 対象：特になし 定員：8人 申し込み多数の場合は抽選 料金：無料 申込先：往復はがきで10月16日必着で 申し込む 問合せ：ごみ対策課(内線2534)</p>

編集後記

7月中旬、丸池公園沿いの仙川遊歩道でカワセミに出会いました。一瞬立ち止まり、ほっとした気分になりました。カメラを持った男性はこの時期、谷端三の橋までの間でカワセミ親子を見かけるとのこと。このような風景が維持できることを期待します。

一方、日本では「巨大地震」諸外国では「スーパーフレア」の災害が取り上げられています。減災対策はあるのでしょうか。(中野)

次回は平成25年1月1日発行です
発行：みたか環境活動推進会議
(愛称 みんなの環境)
連絡先：三鷹市環境政策課
電話 0422-45-1151 内線2525
E-mail:kankyo@city.mitaka.tokyo.jp
本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。